



苦小牧工高
関東六華会

会報

2009.4.
第6号

発行責任者 川上 毅
編集 藤 弘 嘉夫 治
青藤 木谷 時
藤田



苦工忘れ難し

増田 忠雄

(機械二十四年卒)

私は、苦工を卒業して六十年になります。故郷とは遠くにおいて想うもの、とある様に苦小牧で生まれ、苦工から巣立った私には特別の想いがあります。それは、私の亡父長人が、苦工創設から三十四年間、教員を務めていて、子供の頃から、本校の話聞いていたからです。創立当時の事等は、苦工三十周年記念時、父が苦工新聞に転載していますがその中で、初代平地校長先生については創立の翌年、新校舎の開校祭式典の前に病に倒れ亡くなられたそうです。息を引き取られる前に、父の手を握って、本道一の立派な学校にしてくれ、と最後のお言葉を託して逝かれたと聞いています。初代校長が創立時、モットーとされた、質実剛健の精神は、時代が変わった現在も、本校生に、受け継がれてるものと信じています。私が苦工に入学したのは敗戦の翌年で、衣食住の総てが不足、更に日本の行先が判らない混乱と不安の時代でした。空腹を抱えながらの授業でした。放課後等は、陽が沈む迄島仕事をしました。学校の当時の教材は、GHQの指令で旧来のものを一部削除したり、改定された更紙刷り教材を使用しました。二学年に入り、学校名が新しく

現在の名に改称され、翌年から民主的な教育制度に移るとゆう矢先、九月火災で本校舎が全焼しました。幸い体育館や実習室が焼け残り、その中で、授業が出来ました。本校舎の再建が決まり、資金を支援する為働いたり、実習では建築用の金具等も作りました。

三学年から本校は、新教育制度に移り、更に一学年在学が必要でしたが私は家庭の事情もあって旧制で卒業しました。当時の先生の多くの方々は、他界されていますが、教わった専門の知識は、その後、私の仕事の上で、大きな力となった事を感謝しています。卒業後は、地元の王子製紙に入社、設計を担当、苦工の先輩後輩の皆さんと、工場設備の近代化工事等に従事しました。昭和天皇陛下が工場を御覧になられるとの事で、緊張したものです。私は、昭和四十年本州に渡ってプラスチック紙の開発の為、JSP(株)と王子油化合成紙(株)に出向しました。当時は原油価格が、まだ二ドルの時代でした。その後王子製袋(株)に向向して、パレット積み自動梱包機の開発を手掛け、日本の主要飲料品や電子部品メーカーに納入しましたある時は納期遅れを、後輩に助けられた事もありました。現在、百年に一度と言われる様な、米国発金融危機が、世界経済を不安にしています。派遣切り等が社会問題となっています。米国もそうですが

日本も大きな変革を必要とする時代に入っている様に思います。幸い、我が関東六華会の誇り、「加賀谷 健さん」が参議院の議員として、政界での活躍にエールを送るうではありませんか。



自分史

門田 喜美夫
(電子科四十五年卒)

「光陰矢の如し」ではないけれど、月日の経つのが早いものであると感じる今日この頃である。私は、昭和二十六年に勇払郡早来町(現在合併により追分町)で生まれました私共の父親は、樺太(当時の豊原)引揚者で、この地に開拓で入り大変な苦労があったと聞かされております。早来町は雪印の早来工場があり、当時の人口も七千人程いたと記憶しており我が故郷早来には、現在参議院員で元オリンピック選手の橋本聖子がいることを誇りに思っております。

一昨年暮れ(平成十九年)に母が亡くなり久しぶりに故郷へ戻り、早来駅の駅舎を見ると当時、ここから汽車(蒸気機関車)に乗り、苦小牧まで通学していた当時の状況が懐かしく思い出され哀愁に包まれる思いで一杯になったのを思い出しております。

早来中学校三年当時高校への進学を希望し、このころ、将来何をやるうかと考えることになり、将来は、技術を身につけた方が良くと考え工業高校へ進む決心をしたのです。当時の自分の成績では無理を承知で苦小牧工業の電子科を目指したのですが最終倍率が当時二、四倍との高倍率で今更後戻りは出来まいと試験に挑戦し、何とか合格できた状況で当時両親も大変喜んでくれました。当時の苦小牧工業は、木造作りで尾崎校長先生だったと思います。電子科は、一クラスで、ほとんどが汽車通学で私が利用していた室蘭線も由仁、栗沢等から通学していた同期がおり通学も楽しい思い出でした。当時蒸気機関車の石炭の煙の臭い、時々なる汽笛の音は何とも書えない故郷の宝になっております。高校生活の三年間もあつという間の出来事で就職時期になり、とりあえず上京することを考え四十五年四月から東芝に入社し、二年半ほど勤務後、退社し、第一生命(先輩の紹介)株(西友)に転職して、私に転職が訪れたのであります。昭和四十八年警視庁の警察官に採用されたのです。苦小牧工業高校出身の警察官がいても異色でいいだろうし、都民の生命、身体、財産を守る意志を固めたのであります。当時警察官になり、母校の電子科に顔を出した際に、今は亡き武藤先生がとても喜んでくれ激励して頂いたのを覚えております。

小平警察署を搬出しに大半が捜査官としての勤務で本庁勤務を含め、現在の職場は十二回目の転勤先(川上会長居住地)で仕事をしている状況下です。現在迄、凶悪犯、外国人犯罪等との対決する日々の毎日であり、常に携帯電話を肌身離さずの状況に置き、旅行もままならぬ現実があります。以前から同期の藤田氏の誘いもあり、同窓会の出席を数年前から参加しておりますが商業柄急に出席が出来なくなり、多々皆様迷惑かけておりますが、岩本会長他皆様のお顔を拝見すると「自分は苦工出身で良かった」と感じています。残す警察人生も三年余りとなりましたが一杯頑張ると共に同窓生皆様のご健勝とご多幸をご祈念いたします。

二〇〇八年度の苦工同窓会

関東六華会の総会開催される

関東六華会の総会は五月十七日(土)十五時から例年の新宿駅西口の会場から眺望の素晴らしい観ヶ関ビルの三十三階の東海大校友会の宴会場に変更して、ご来賓では本部からは岩本会長、苦小牧東京事務所々長の松本様、我が苦工の誇り、加賀谷 健(電三十七卒)参議院員が参加されて総勢二十三名で開演した。

恒例になりますが諸先輩、物故者に対して全員が黙祷した後に、久しぶりの再会の乾杯には鈴木 菊雄(電十七卒)大先輩から元気に発声されて懇親会に入ったが今回の参加者は少なく、少し淋しい状況でしたがお酒が入ると懐かしい故郷や母校の思い出話に華がさきました。カラオケの好きな方が沢山いて充分に楽しまれて、限られた時間の中でしたが同窓会の絆を感じた会合でした。

苦工関東六華会同窓会



参加者全員で記念撮影

国会で「活躍の加賀谷 健氏



編集雑記

『苦工大火』

昭和二十二年九月十四日午前三時半、暴風と雷雨の最中に事務室から出火して、校長はじめ、在町生徒の必死の消火で各科実習室と体育館は免れた。原因は電熱器の消し忘れか落雷説があるも不明。日本各地に百m幅道路と称され街中に広幅道がまた上野谷中は寺寺となんとこの壮観な町並み。これらは蠟燭出火で寺院の集結と類焼対策。苦小牧も大正十年「鯉のぼり大火」で町が大打撃。それにめげずに復興の機運が高じて「苦工創設」が実現。二十五年前の記念誌「座談会」で「苦工入学の動機」を皆が語る中で、いみじくも現在同窓会々長の岩本靖男さんが「幼い時に、苦工火事の知らせに下宿生が衣類もまとわずパンツ一つで飛び出していった。あの時の母校を愛する姿勢に感動し、苦工なら何科でもいいから入ると決めた」を思い出して「火災は災いでもあり人生」と感じた。

「ご案内」と「注意

関東六華会の総会開催!

二〇〇九年度の関東六華会の総会は五月十六日(土)に開催致しますので多数のご参加をよろしくお願い申し上げます。

☺ 会員情報たより

同窓会のご案内で各位から頂いた情報をお知らせするコーナーですが別紙記載致しましたのでご覧下さい。

編集後記

この一年間を思うと、食の不安がらみで毒入り餃子事件に始まり、汚染米、うなぎ産地偽装、そして秋葉原無差別殺傷事件元厚生次官連続襲撃、日銀総裁空席、高齢者医療制度や政局混迷の中でサブプライム絡みで米国のピクク3の経営危機により、日本も風邪が移り、自動車産業始め家電メーカーの営業赤字で多くの働き手が派遣切りリストラがよぎなく進み生活基盤がメチャクチャになって、安心の生活が出来ない現状を手を拱いて待つしかないのかと、思案悩むのがなくなるのはいつの日か待たれる。